

平成 26 年 12 月 14 日

日本ミニバスケットボール連盟
理事長 坂本昌彦

F I B A への説明・要望事項等

1. 日本のミニバスケットボールゲームにおけるゾーンディフェンスの施行について

(1) 経 緯

F I B A M I N I の規則ではゾーンディフェンスが禁止されているが、日本においても 1985～1988 年の 4 年間、禁止にしていた時期がある。しかし、現場において混乱を生じ、その不具合を解決できなかったことから、現在はゾーンディフェンスはマンツーマンディフェンスと同じような戦略・戦術として認めている。

(2) 方 向

日本のミニバスケットボールプレイヤーのよりよい育成の観点から、ゾーンディフェンスを禁止の方向で検討を進めている。規則の変更として捉えるのではなく、大会要項等の変更から始める。

(3) 方 策

日本のミニバスケットボール指導者があまりにも勝利至上主義にとられることからゾーンディフェンスの活用が見られる。その指導者に対して勝利至上主義に偏らない、健全なプレイヤー育成について啓発活動を全国的に進める。

2. F I B A M I N I の規則における要望

(1) コートにおける制限区域の変更

F I B A 競技規則では 2010 年 10 月から（日本では 2011 年 4 月）制限区域のサイズ変更があり、台形から長方形になった。しかし、F I B A M I N I の規則では台形のままなので、施設利用面で不都合が生じている。日本の小学校体育館は法律によって学校開放という、一般の方達にも、平日の夜や休日体育館の使用を認めている。そのため、一般大会使用時にはラインを引き直す等の作業を行わなくてはならない。逆に公共の体育館であれば、ミニバスケットボール大会を開催するときには、台形にコートを作り替えねばならない作業が生じる。できれば、F I B A M I N I の規則のコートサイズ（制限区域）を台形から長方形へ変更していただきたい。

(2) ゾーンディフェンスの記述を規則ではなく、別の要項として記載する

F I B A M I N I の規則に「ゾーンディフェンスを禁止する」が掲載されているが、ゾーンディフェンスは規則ではなく戦術と捉えられることから、競技規則から外し、別要項で記載するようお願いしたい。

3. F I B A M I N I の規則を活用した、U-12の国際大会の開催

現在、アンダーカテゴリーの世界選手権が F I B A 主催で開催されるようになった。是非、ミニバスケットボールにおいても F I B A 主催の U-12 の国際大会を開催実施することを希望する。現在の F I B A M I N I の規則が世界の児童の実態に則しているのかどうか、検証する意味においても必要であると考えます。